

図書館員のブレイクタイム

こんな本を読んでみました



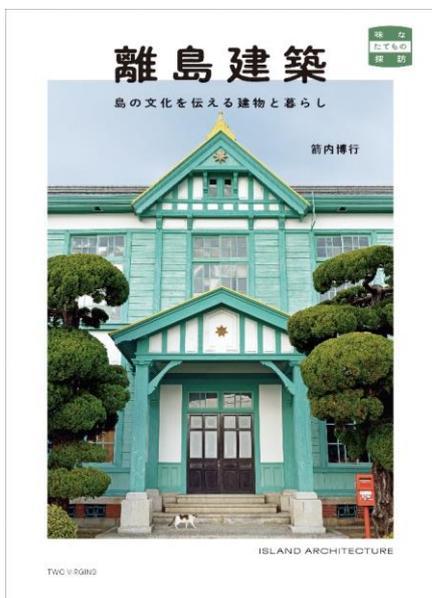
タイトル 頂を目指して
著者 石川 祐希
出版 徳間書店

男子バレーが面白い！と近年話題になっています。現在バレーボール男子日本代表でキャプテンを務めているのが石川祐希選手。彼は小学4年生でバレーボールを始め、19歳で日本代表に選ばれてから約10年間トップを走り続けています。

そんな石川選手も、バレーボールに出会うまでは公園や川で遊ぶのが大好きな、ずいぶんやんちゃな子どもだったそう。世界で活躍するトップアスリートでも私たちと同じなんだと親近感がわきました。

メディアでは知ることができない石川選手の考えや思いをこの本を通して知ることができます。

呉市の歴史と関わりの深い「海」に関する所蔵資料を紹介します。



海の文庫

タイトル 離島建築
島の文化を伝える建物と暮らし
著者 箭内 博行
発行 トウ・ヴァージンズ

『離島建築』は建築の本ですが、著者である箭内さんは建築の専門家ではなく写真家です。

箭内さんは日本中の離島を歩いて回り、島の人々と交流をしながら島の自然や建物、人々の暮らしや文化を写真におさめてきました。

貴重となった石材から成る島独特の石造りの集落に、かつての炭鉱島で近年まで開かれていた飲食店「かあちゃんのお店」など。ゆかりのある人たちの体験や思い出も綴られていることで建築物の息吹が感じられます。独自の気候や文化から生まれた建物を眺めながら、あたたかな島の人々の想いや暮らしに触れる離島への旅に出かけてみませんか。呉市の蒲刈島や御手洗も紹介されています。

ユニークなモニュメントの写真も楽しいです。私の推しは北海道奥尻島にある「うにまるモニュメント」。ページをめくり突然現れた姿に、思わずくすりとなりました。

第172回 下半期 芥川賞・直木賞候補作
(2024年12月12日発表)

【芥川賞・直木賞の選考会は2025年1月15日(水)の予定です。】
※所蔵していない本にはリクエストもできます。

【芥川賞 候補作】



『DTOPIA(デートピア)』 / 安堂 ホセ 著
『ゲートはすべてを言った』 / 鈴木 結生 著
『ダンス』 / 竹中 優子 著
『字滑り』 / 永方 佑樹 著
『二十四五(にじゅうご)』 / 乗代 雄介 著

【直木賞 候補作】



『よむよむかたる』 / 朝倉 かすみ 著
『藍を継ぐ海』 / 伊与原 新 著
『飽くなき地景』 / 荻堂 顕 著
『秘色の契り 阿波宝暦明和の変顔末譚』
/ 木下 昌輝 著
『虚の伽藍』 / 月村 了衛 著